

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 29 年 5 月 23 日	
所属部局・職	理学研究科生物科学専攻植物学系植物分子生物学分科・修士課程学生
氏名	大坪卓

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
日本・屋久島
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
ヤクザル調査
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 29 年 5 月 13 日 ~ 平成 29 年 5 月 19 日 (7 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
PWS ハウス屋久島、半谷吾郎准教授
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
今回の渡航では、屋久島においてフィールド科学実習をおこなった。実習でヤクザルの糞の採集をし、屋久島内のヤクザルの分布の調査を行った。また、ヤクザルの行動の観察も行った。

さらに、QGIS を用いてデータの分析まで行った。 この機会を得て、ヤクザルは捕獲の許可されている北部や東部の地区においてはその数が減少しているという結果を得た。島民も含めてヤクザルの保全に協力していかなければこのままでは貴重な野生のニホンザルであるヤクザルが絶滅してしまうのではないかという感想をもった。 また、この経験は、ヤクザルの保全に対し、具体的な方針を考える上で重要となるだろう。 今後の予定としては、The 6 th International Seminar on Biodiversity and Evolution: New Methodology for Wildlife Science で実習成果を報告する予定である。
6. その他 (特記事項など) なし。